

評価の結果、評価に係る宮城県行政評価委員会の意見及び県の対応方針
 政策整理番号 26 地域の誇りとなる文化・芸術の保存や振興

施策体系				県民満足度		評価原素				
政策番号	政策名				満足度(政策)		政策評価シート(A)			
					重視度	満足度	政策評価シート(A)	政策評価シート(A)の内容		
	分野	基本方向	政策	施策番号	施策名	政策評価指標名		指標値達成度	満足度(施策)	
優先度(順位)							優先度(割合)		施策の必要性	施策・事業展開シート(C)
3 - 8 - 1	地域の誇りとなる文化・芸術の保存や振興				重視度	満足度	[施策群設定:適切] 県民が日頃行っている創作活動や表現活動、美術や演劇などの文化・芸術活動に親しむための環境づくりなど政策目標に合った施策群である。県民満足度調査の結果、重視度は過去最高となった。女性よりも男性が低いことから現役世代に対する必要である。年齢別では65歳未満が低いことから現役世代に対する事業開催の配慮が必要と思われる。なお、本県では平成16年7月に文化芸術振興条例が制定され、その具体的な施策を展開する宮城県文化振興ビジョンも平成17年7月に策定されることから、ビジョンを具現化する最も有効な政策と考えられる。 [政策評価指標群:おおむね適切] 指標は各個人の多様な価値観や満足度が反映されるよう検討すべきと思われるが、事業の工夫次第で県民満足度がどう変わるのか推移を見る必要がある、当面は事業内容の充実を図り状況を見極めたい。なお、重視すべき施策に適切に指標が設定されている。 [施策群の有効性:有効] 政策全体の政策評価指標達成状況から「有効」、政策満足度結果から「有効」、社会経済情勢の点からは「おおむね有効」と判定した。 [総括] 上記3点を総合的に検証した結果「おおむね適切」と判断する。			
					65	60				
	1	文化財、伝統文化の保存・継承・活用			1位	34.3%	大			

**評価の結果、評価に係る宮城県行政評価委員会の意見及び県の対応方針
政策整理番号 26 地域の誇りとなる文化・芸術の保存や振興**

行政評価委員会政策評価部の意見		県の対応方針	評価結果
7 段階 判定	政策評価	政策評価	政策評価
	施策評価	施策評価	施策評価
3	<p>・本政策全般に、施策毎・項目毎に適切な説明がなされていない結果、話の筋が見えなくなっている。反省、改善策、事業とつながる様な記述が望まれる。特に、A-1-3「社会経済情勢」での説明は、6施策全てが「文化振興ビジョン」に対し有効な施策だ、と同一の記述であり意味がない。それぞれの施策毎になぜ必要なのかを客観的に記述する必要がある。条例やビジョンそのものは、個々の施策や事業の組み合わせであるとか有効な組織といったことを当然に保証するものではない。この政策・施策がビジョンで達成しようとしている文化政策のアウトカムの中の部分を重視しているのか、そうした集約を保障する根拠は何か、といったことを記述すべきである。</p> <p>・政策名の「地域の誇り」と個別施策の連関が乏しいように思える。例えば、施策2の説明では芸術文化の「基礎体力」向上をもたらすことで地域文化の誇りに結び付けていくといった程度の記述が必要ではないか。</p> <p>・施策2と施策3は同一の政策評価指標を採用しているが、施策目的は異なっている。それぞれの施策の効果を適切に測る指標に変更すべきではないか。また、固定施設への来場者数とイベント動員（参加）数を合算した数字に、県の事業がどの程度影響するのかや疑問ではある。</p>	<p>・A-1-3社会経済情勢については、下記のとおり訂正する。</p> <p>(施策1) 古いもの・伝統的なものが見直されている中、地域の歴史に根ざした祭礼行事、民俗芸能、伝統工芸等の伝統文化や文化財を、将来にわたって確実に継承し、発展させていくための取組が求められている。</p> <p>(施策2) 公立文化施設に文化芸術交流の支援、促進を行うセンター機能が求められる中で、公立文化施設の企画の充実に対する要望も増えている。こうした期待に応えるための公立文化施設の取組への支援を図る必要がある。</p> <p>(施策3) 公立文化施設に住民の文化芸術活動の支援、促進を行うセンター機能が求められる中で、公立文化施設の住民の文化芸術活動への施設開放等、施設の有効活用に対する要望も増えている。こうした期待に応えるための公立文化施設の取組や県民・団体の文化芸術活動への支援を図る必要がある。</p> <p>(施策4) 地域に受け継がれている伝統食材や郷土料理等は、スローフード運動と相まって関心を集めてきており、地域の産業振興につなげようとする動きも活発化している中で、これらの生活文化を掘り起こし、保存し、継承し、及び活用する住民の取組を応援する市町村等へ支援する必要がある。</p> <p>(施策5) 文化芸術活動を支える専門的な技術スタッフをはじめ、文化ボランティア、NPO等幅広い人材及び団体の育成が求められている。こうした期待に応えるための公立文化施設や県民・団体の取組への支援を図る必要がある。</p> <p>(施策6) 国際化の流れの中で、文化芸術の交流を通じて、海外の地域と互いの文化芸術を理解し、尊重し、多様性を認め合うことは、相互理解を促進し、地域の活性化につながるものであり、こうした期待に応えるための市町村等の取組への支援を図る必要がある。</p> <p>・政策名の地域の誇りと個別政策の関連については、平成18年度評価に向けて記述の検討を行う。</p> <p>・鑑賞する側も、表現発表する側でも文化芸術活動への参加状況の総体を量る上では、外観的には各施設やイベントでの出入りによるものが現在のところ現実的であると判断する。</p> <p>・文化芸術施策については、他の自治体や民間団体との個別的な活動の集積と協力が不可欠であるので、現在の指標が現実的であると判断する。</p>	<p>・A-1-3社会経済情勢については、下記のとおり訂正する。</p> <p>(施策1) 古いもの・伝統的なものが見直されている中、地域の歴史に根ざした祭礼行事、民俗芸能、伝統工芸等の伝統文化や文化財を、将来にわたって確実に継承し、発展させていくための取組が求められている。</p> <p>(施策2) 公立文化施設に文化芸術交流の支援、促進を行うセンター機能が求められる中で、公立文化施設の企画の充実に対する要望も増えている。こうした期待に応えるための公立文化施設の取組への支援を図る必要がある。</p> <p>(施策3) 公立文化施設に住民の文化芸術活動の支援、促進を行うセンター機能が求められる中で、公立文化施設の住民の文化芸術活動への施設開放等、施設の有効活用に対する要望も増えている。こうした期待に応えるための公立文化施設の取組や県民・団体の文化芸術活動への支援を図る必要がある。</p> <p>(施策4) 地域に受け継がれている伝統食材や郷土料理等は、スローフード運動と相まって関心を集めてきており、地域の産業振興につなげようとする動きも活発化している中で、これらの生活文化を掘り起こし、保存し、継承し、及び活用する住民の取組を応援する市町村等へ支援する必要がある。</p> <p>(施策5) 文化芸術活動を支える専門的な技術スタッフをはじめ、文化ボランティア、NPO等幅広い人材及び団体の育成が求められている。こうした期待に応えるための公立文化施設や県民・団体の取組への支援を図る必要がある。</p> <p>(施策6) 国際化の流れの中で、文化芸術の交流を通じて、海外の地域と互いの文化芸術を理解し、尊重し、多様性を認め合うことは、相互理解を促進し、地域の活性化につながるものであり、こうした期待に応えるための市町村等の取組への支援を図る必要がある。</p>

評価の結果、評価に係る宮城県行政評価委員会の意見及び県の対応方針
政策整理番号 26 地域の誇りとなる文化・芸術の保存や振興

政策番号	施策体系				県民満足度		評価原素				
	政策名				満足度(政策)		政策評価・シート(A)				
					重視度	満足度					
	分野	基本 方向	政策	施策番号	施策名	政策評価指標名	指標値 達成度	満足度(施策)		政策評価・ シート(A)	政策評価・シート(A)の内容
優先度 (順位)								優先度 (割合)	施策の 必要性	政策評価・ シート(B)	政策評価・シート(B)の内容
								施策・事業展開 シート(C)	施策・事業展開シート(C)の内容		
3 - 8 - 1 (続き)									施策評価 シート(B)	おおむね 適切	<p>【原関与・事業群設定:おおむね適切】本施策での県の役割は、文化芸術振興ビジョンの策定、みやぎ県民文化創造の祭典開催事業の実施である。事業群は、県民の文化芸術活動の推進役として必要な事業であり施策目的に合致する。</p> <p>【事業群の有効性:おおむね有効】施策満足度は53 55 59と推移しており、また、政策評価指標「県立文化施設への入場者数と芸術文化事業への参加者数」は目標値を上回っていることから事業群は有効と判定できる。</p> <p>【事業群の効率性:おおむね効率的】施策満足度の推移、政策評価指標の達成状況から効率的と言える。事業費に対する業績の割合からも事業全体では効率的に実施されていることが確認できる。</p> <p>【総括】上記3点を総合的に検証した結果「おおむね適切」と判断する。</p>
	2	美術や演劇など文化・芸術活動に親しむための環境づくり	県立文化施設への入場者数と芸術文化事業への参加者数	A	2位	28.8%	大	施策 事業 展開 シート (C)	維持	<p>【施策・事業の方向性】住民との協働による行政運営を目指す県や市町村にとって、地域社会の活性化が課題となっている。地域の祭礼、伝統行事、住民の地域に根付いた創作活動等は、地域住民の結びつきを強め、地域間交流を生み出すものであることから、本県においては、文化芸術の力で地域社会を活性化させる必要がある。</p> <p>平成18年度は、地域文化及び県民の文化芸術活動の持つ力をそれぞれの地域の活性化につなげるために、教育分野、観光分野等他分野においても文化を念頭においた施策を、これまで実施してきた事業に加え、さらに推進していく(子どもの文化芸術活動を活かした地域づくり、文化芸術を活かした産業、観光による地域づくり、文化芸術施設等を核とした地域づくりなど)。</p>	
	3	県民が行う創作活動や表現活動への支援	県立文化施設への入場者数と芸術文化事業への参加者数	A	5位	8.3%	大	施策 評価 シート (B)	おおむね 適切	<p>【原関与・事業群設定:おおむね適切】本施策での県の役割は(社)宮城県芸術協会、宮城県、仙台市、仙台市教育委員会、河北新報社、(財)宮城県文化振興財団と共催し、県民の優れた芸術文化活動の発表の場と鑑賞機会を提供することである。事業は県民が日ごろ行っている創作活動や表現活動を促進する上で必要であり施策目的に合致する。</p> <p>【事業群の有効性:おおむね有効】施策満足度は51.5 52 50と低調であり有効とは言えない。一方、政策評価指標「県立文化施設への入場者数と芸術文化事業への参加者数」は目標値を上回っていることから事業群は有効と判定できる。</p> <p>【事業群の効率性:おおむね効率的】施策満足度から効率的とは言えないが、政策評価指標の達成状況からは効率性が確認できる。事業費に対する業績の割合では、事業費が前年度同額にもかかわらず業績(入場者数)が下回ったため効率性は若干落ちた。</p> <p>【総括】上記3点を総合的に検証した結果「おおむね適切」と判断する。</p>	
								施策 事業 展開 シート (C)	維持	<p>【評価結果から抽出される課題と対応策】県民満足度調査結果では、満足度が今回2ポイント低下し、重視度のかい離が広がった。芸術文化への積極的な取組が求められている。</p> <p>【施策・事業の方向性】住民との協働による行政運営を目指す県や市町村にとって、地域社会の活性化が課題となっている。地域の祭礼、伝統行事、住民の地域に根付いた創作活動は、地域住民の結びつきを強め、地域間交流を生み出すものであることから、本県においては、文化芸術の力で地域社会を活性化させる必要がある。</p> <p>県芸術祭は、開催日数が40回を超える伝統ある全県的な事業である。県民の芸術活動を積極的に支援していくため、積極的に関与する。</p>	

**評価の結果、評価に係る宮城県行政評価委員会の意見及び県の対応方針
政策整理番号 26 地域の誇りとなる文化・芸術の保存や振興**

行政評価委員会政策評価部の意見		県の対応方針	評価結果
7 段階 判定	政策評価	政策評価	政策評価
	施策評価	施策評価	施策評価
3	<p>・基本票文中の「価値観の多様化」に対し県の事業をどのように改善していくのか説明がない。平成17年度に県文化振興ビジョンを策定することのみ述べているが、方向性や計画内容の説明が無いため、これまでの事業との関わりが見えない。施策目標をどのように達成していくのかストーリーが見えることが重要である。また、C-2では次年度の方向性の説明内容と判定(維持)の整合性がない。</p> <p>・芸術劇場整備が当面凍結されていること、その状況で代替的な努力を行っていることを明記してはどうか。また、芸術銀河への県の関与について説明することが望ましい。</p> <p>・政策評価指標の参加者数や入場者数について、民間が半分以上を占めてはいるが、指標として妥当か疑問である。現場の努力が報われる指標が望ましい。</p>	<p>・前段は指摘のとおり訂正する(1のとおり)。後段については、次年度の施策の方向性について、文化振興ビジョンに基づいた事業を次年度も引き続き実施することから、「維持」としている。</p> <p>1 「B-2事業群の有効性」 ・余暇時間の増大や価値観の多様化によって、個人が文化芸術に関わる時間や機会が増える状況となっている。 ・策定されたビジョンの施策展開の基本方針に、「文化芸術による地域づくり」があるが、そのためには住民一人一人が個性を發揮しながら文化芸術活動に関わっていきける環境づくりが求められている。 ・ひとつには、県民が優れた文化芸術活動の成果に触れる機会をより増大させることである。さらに、県民が文化芸術活動で創造した成果を広く知ってもらう機会をより増大させることである。 ・県としては、社団法人宮城県芸術協会や地域文化の担い手である各市町村の文化団体の連合である文化協会連絡協議会、市町村等との協力により、みやぎ県民文化創造の祭典を開催し、鑑賞・発表の機会の増大に努力している。 ・次年度以降も引き続き鑑賞・発表の機会の増大に努めることとし、特に音楽アウトリーチプログラムなど子供の鑑賞機会の提供に努力し、ビジョンの施策展開の基本方針の「(1)子どものころから一人一人の創造性を育む環境づくり」を推進する。」</p> <p>・指摘のとおり記述する(2のとおり)。</p> <p>2 「芸術劇場整備については、本県財政事情から現在見合わせざるを得ない状況である。当面は、県民会館の修繕を重ねながら県民の芸術鑑賞機会の提供や発表機会の場の提供に努めていく。また、宮城県民文化創造の祭典事務局を担当し、関係団体や市町村との連携を図りながら、県民の文化芸術活動の発表機会の提供の場として、宮城県民文化創造の祭典実施事業を推進していく。」</p> <p>・みやぎ県民文化創造の祭典(芸術銀河)開催事業のように他の自治体や民間団体との個別な活動の集積と協力の結果が、入場者数や参加者数に反映されることから、文化・芸術活動に親しむための環境づくりに関する文化芸術施策についての効果測定においてある程度の関連性があるものと考えられる。また、芸術銀河事業では、県内の多数の文化芸術イベントも網羅しており、県内の多くの県民が参加することが期待されており、したがって現在の指標が現実的であると判断する。</p>	
	3	<p>・B-1欄で、施策満足度のかい離が大きくなったので事業の必要性があると述べているが、満足度が低調な今の事業のまま継続するのでは意味がない。県民は不満だと言っているのだから原因分析をした上で、新たな手を打つべきではないか。その道筋が分かる記述が必要。評価システムは、事業=施策=政策の連関がうまく、かつ経済的に構成されているかを評価するものである。</p> <p>・「宮城県芸術祭」は主要事業・重点事業ではないが本施策の基幹事業であり、C-2「次年度の方向性とその説明」欄にも記述すべきである。</p>	<p>・満足度については、一般県民全体の数値が市町村や学識者等の数値と比べて低い状況から、専門家による活動支援の不満より一般県民による活動支援の不満が大きいと推定される。 ・「宮城県芸術祭」は専門家集団による活動支援の色合いが濃く、市町村や学識経験者の間ではある程度の満足度をいただいているとの判断である。 ・一般県民による活動に対する支援が求められているが、ニーズについては今後把握に努めていくとともに、一般県民との距離が最も近い地域の文化拠点としての各市町村等の公共ホール・文化施設の活動への効果的な支援策を検討していく。</p> <p>・以上のことから「宮城県芸術祭」は、支援を受ける側としてはある程度の満足度をいただいているとの判断で、次年度の方向性としては「維持」との判断としたものであり、次のとおり記述する。 C-2施策・事業の方向性 ・一人一人の創造性を育む環境づくりを基本方針の一つに据え、「文化芸術活動の担い手の育成」を目標にして、宮城県芸術祭の開催や県民文化創造の祭典事業における創作活動や表現活動への支援とともに、芸術家、芸術団体の育成、文化芸術活動を支える人材、団体の育成や青少年、高齢者、障害者等の文化芸術活動の充実に努めていく。</p>

評価の結果、評価に係る宮城県行政評価委員会の意見及び県の対応方針
 政策整理番号 26 地域の誇りとなる文化・芸術の保存や振興

政策番号		施策体系				県民満足度		評価原素			
分野	基本 方向 政策	政策名				満足度(政策)		政策評価シート(A)			
						重視度	満足度	政策評価シート(A)の内容		政策評価シート(B)	
		施策番号	施策名	政策評価指標名	指標値 達成度	満足度(施策)					
						優先度 (順位)	優先度 (割合)	施策・事業展開 シート(C)		施策・事業展開シート(C)の内容	
3 - 8 - 1 (続き)		4	食文化等の生活文化の保存・継承・活用	食文化の醸成に取り組む市町村の割合	B	3位	14.7%	大	施策評価シート(B)	おおむね適切	【原関与・事業群設定:おおむね適切】本施策での県の役割は、県内市町村の取組への支援である。事業は地道であるが施策目的を着実に踏まえた事業である。 【事業群の有効性:おおむね有効】施策満足度は50 55 60と推移しており有効性が確認できる一方、政策評価指標「食文化の醸成に取り組む市町村の割合」は目標値を達成しておらず有効とは言えない。 【事業群の効率性:おおむね効率的】施策満足度の推移から効率的と言えるが政策評価指標の推移からは効率性を確認することはできない。 【総括】上記3点を総合的に検証した結果「おおむね適切」と判断する。
									施策事業展開シート(C)	維持	【評価結果から抽出される課題と対応策】社会的にこの取組の必要性の認識が高まってきており、国や市町村、地域有志等により類似の取組が行われるようになってきている。しかし、事業内容は類似しているが、目的が「伝統的生活文化の保存・地域農産物の消費拡大・自立的・健康的な食生活運営能力の向上」など様々である。手法も多様である。相互の関連性や役割分担がなされていない。 取組の有意性・有効性は明らかだが、類似の取組がばらばらに行われているため、現場では混乱が生じている。 県全体の視野に立った施策レベルの分類及び総合化が必要だと思われる。県はモデル事業の実施で蓄積したノウハウを市町村に情報発信し、全県的な取組を誘導していく。 【施策・事業の方向性】住民との協働による行政運営を目指す県や市町村にとって、地域社会の活性化が課題となっている。地域の祭礼・伝統行事・住民の地域に根付いた活動は、地域住民の結びつきを強め、地域間交流を生み出すものである。県は文化芸術の力で地域社会を活性化していく。 平成14～16年度でモデル3市町村で取り組んだ成果を県内市町村に提示していく。
		5	文化・芸術活動を創造・先導する人材の育成			4位	8.7%	大			
		6	海外との文化交流等の推進			6位	4.3%	大			

**評価の結果、評価に係る宮城県行政評価委員会の意見及び県の対応方針
政策整理番号 26 地域の誇りとなる文化・芸術の保存や振興**

行政評価委員会政策評価部会の意見		県の対応方針	評価結果
7 段階判定	政策評価	政策評価	政策評価
	施策評価	施策評価	施策評価
4	<p>・政策評価指標「食文化の醸成に取り組む市町村」について率直に課題が記述されており評価できるが、「存続」とする理由が書かれていない。また、一つ取り組んでも複数取り組んでもカウントは1町であることから実態がうまく数字に表せるよう工夫がほしい。</p> <p>・指標妥当性分析に記載されている「波及」について、早いうちに具体的戦略を構築することが望ましい。例えば、教委や健康長寿などの関連部署と強い連携をとって進めれば、少ない資源を有効に使うことができるのではないかと。また、モデル事業では他の市町村関係者も検討会等にも含めるなど、連鎖的な広がりにつながるような仕組みとしたほうが有効かつ効率的である。</p> <p>・学校毎に食育指導が可能となれば、今後、教育現場との連携も考えられる。食を含めて「子どもたちの生活を改善しよう」といった一大運動にしていくことが理想。きちんとごはんを食べることが学力向上に結びつく要素の一つと考える。</p>	<p>・現在の政策評価指標は課題を有するが、現実的に他の数値に代え難いので存続する。ただし、当初策定時の比較上の一貫性を持たせるため、当初計画策定時点の市町村数を参考数値として表示する。なお、同一市町村内での取組数については、何ををもって一とするか(地区なのか、事業予算なのか、どの程度の取組かなど)、実際のカウントが難しいが、今後実態を数字に表せるよう検討したい。</p> <p>・モデル事業は16年度をもって終了した。これまでのモデル事業での成果を取りまとめ、指針の形で他の市町村の取組みに役立てることとする。指針(仮称)を各学校や保健担当部署にも配布し、有効に活用していただくことは、波及効果を期待する手段の一つとしてあげられる。</p> <p>・各学校で食育に取り組む際に、上記指針を活用し地域文化の掘り起こしを視野に入れた食育指導となるよう、教育委員会に働きかける。</p>	